

令和2（2020）年度事業報告

令和2年7月 1日から
令和3年6月30日まで

1 事業の成果

○日本IDDMネットワークの3つの約束

インスリンの補充が必須な患者とその家族一人ひとりが希望を持って生きられる社会を実現するために、平成22年度に“救う”“つなぐ”“解決する”の3つの約束を掲げました。

そして、平成23年度に開催した日本IDDMネットワーク法人化10周年・1型糖尿病研究基金設立5周年記念シンポジウム開催を機に、ゴールは、2025年に1型糖尿病を「治らない」病気から「治る」病気にする事としました。

さらに、平成25年度には、インスリン補充から解放され病気になる前のもとの体に戻る「根治」に、現在の治療法の改善により体への負担が軽くなり生活の質が向上する「治療」並びにこれから新しく発症する患者を無くして1型糖尿病を完全に克服する「予防」を加えて、1型糖尿病の「根絶」と定義し、「根絶」を最終目標として掲げました。

その約束を果たすための令和2年度の主な取り組みは以下のとおりです。

○“救う”－患者と家族の皆さんに私たちの経験を還元します。

患者の祖父母や学校・幼稚園等への説明用パンフレット、ジューCグルコース及び1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart1～5の配布、電話・メール等での相談対応、ホームページやフェイスブック等での情報発信、メールマガジンの配信などに取り組みました。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、引き続き国の情報等を取りまとめ、専門医の監修により、重症化リスクの高い患者・家族のために情報提供を行いました。

相談対応については、AI（人工知能）を活用したシステム完成が遅れていますが、2021年度中の稼働を目指して取組中です。ホームページは、平成30年7月にリニューアルオープンしましたが、さらに見やすくするための改善を続けています。

政策要望では①20歳以上の1型糖尿病患者への医療費助成②持続血糖測定器（CGM）に係る診療報酬の改善③学校などの教職員等及び救急救命士による重症低血糖対応④特別児童扶養手当と小児慢性特定疾病の申請窓口の一元化についての要望書を厚生労働省、文部科学省、内閣府の担当大臣宛に提出しました。さらに介護施設などでの介護職員によるインスリン療法の実施についても現場の声を収集しており、今後、関係団体とも連携して対応して行きます。

発症初期の患者と家族にとって必要なもの（専門医監修によるわかりやすい医療情報冊子、療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧、患者・家族の体験談等）を詰め込んだ「希望のバッグ」（平成26年11月配布開始）プロジェクトは、スポンサー企業の皆様のおかげで好評のまま継続することができ

ました。1型糖尿病が「治る」病気になるまで継続する必要がありますので、毎年発症している全国の患者全員（2000人を見込）に届けることができるよう今後とも重点事業として取り組んでいきます。

加えて、インスリン補充が必要な2型糖尿病患者のための希望のバッグ（平成29年12月配布開始）の送付もスポンサー企業の皆様のご支援により継続することができました。

また、企業のご支援により、「学校、幼稚園、保育園、認定こども園の先生のための1型糖尿病対応マニュアル」を改訂することができ、当バッグにも詰めて、啓発して行きます。

当法人が20年以上に渡って蓄積してきた1型糖尿病に関するノウハウを活かし、2型糖尿病患者・家族のみなさんに、インスリン治療に対する不安をやわらげ、希望をもって生活してほしいという思いから「インスリン・ミーティングー2型糖尿病の血糖コントロール」と題したオンラインイベントを植木浩二郎日本糖尿病学会理事長と患者であるタレントのグレート義太夫氏による講演も交えて開催し、インスリン治療の早期導入を啓発しました。

認定特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン様の協力を得て“低血糖アラート犬”育成に取り組み、2頭（アニモ、アロエ）が患児との共同生活を開始しました。新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、スウェーデンより講師が来日できず認定試験が延期となっていますが、合格後には、家族の一員になる見込みです。なお、3頭目（エフィ）は基礎訓練の段階にあります。

1型糖尿病患者・家族のための社会福祉セミナーを4回（医療費、特別児童扶養手当・障害年金、就労、運転免許）開催し、大好評で終わることができました。この中から動画として「運転免許証取得と更新/就労編」「特別児童扶養手当・障害年金編」を作成中です。

カーボカウントセミナーと料理レッスンを組み合わせた「まもりんぐ料理教室」を開始しました。オンライン開催にもかかわらず参加者の満足度は高水準です。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、患者・家族が対面で話せるイベントの中止・延期や発症したばかりの患者・家族が他の患者・家族と接する機会がないこと等から、「#にちあいしゃべり場～患者・家族の“話せる”オンラインコミュニティ～」を開始しました。それぞれの立場で直面している課題が異なり、年齢別、患者・家族別等タイプ別に回を重ね非常に高い評価を得ています。

なお、患者への奨学金給付及び起業支援は該当者がありませんでした。

○ “つなぐ”

－患者・家族と研究者、医療者、企業、行政、そして社会とつなぎます。

カーボカウント&先進デバイス活用セミナーは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンライン（WEB形式）で4回（初心者向け、経験者向け、医療従事者向けに区分）開催しました。参加者には引き続き好評で、多くの医療関係者にも参加いただき、さらに、カーボカウント講座の動画「1型糖尿病 初級編」「1型糖尿病 応用編」及び「2型糖尿病編」も作成することで、確実に医療・療養環境の充実につながっています。

I D D M白書（1型糖尿病 I D D Mレポート2020）の発行に加え、テ

レビ、新聞、ラジオ等でも多数取り上げていただき、1型糖尿病の認知度がさらに向上したと認識しています。

企業との協働プロジェクトとして、株式会社SHAREEAT様のクラウドファンディング「#クリスマスにケーキを 1型糖尿病の子どもたちへ年一回のプレゼント」に協力し、患児に低糖質のケーキを届けることができました。株式会社宮田運輸様とは「こどもミュージアムプロジェクト」として、1型糖尿病の子どもたちの夢を描いたミュージアムトラックが大阪・関東間を走っています。1型糖尿病の啓発にもつながっています。

また、新たな寄付の形として、三井製糖株式会社様は2019年から株主優待制度として自社製品等に代えて日本IDDMネットワークへの寄付を選択いただける「寄付優待制度」を導入され、この制度を通じて565名（前年度比103名増）の株主様より1,797,000円の寄付を頂戴しました。

○ “解決する”

－研究者の方々に研究費を助成し、1型糖尿病の根治への道を開きます。

1型糖尿病の根絶につながるあらゆる先進的な研究を応援する「1型糖尿病研究基金」による公募型の第15回研究費助成は、寄付者のかたの思いにそった冠基金である「松崎ちづる基金（金額等非公表）」、「竹原ファミリー基金（200万円）」及び「Sky基金（300万円）」を活用し3テーマに対し300万円の助成を行いました。

佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税を財源として、3テーマで4900万円の研究費助成を行いました。

資金循環型（研究成果が出た場合は1型糖尿病研究基金へ資金をリターン）の研究支援は、第5号として「ゲノム編集技術を用いた自己免疫機能の改変による自然発症1型糖尿病モデルブタの開発」に対し自治医科大学（研究代表者が徳島大学より移籍）と2年間の資金提供契約を締結しました。

A-p o r tでクラウドファンディング「子どもたちに”治る”希望を届ける－i P S細胞から膵臓を作る世界注目のプロジェクト－」を実施し、「マウス発生環境を利用したヒト膵臓作製」に対して東京大学へ1000万円の研究費助成を行いました。

“冠基金”である「山田和彦1型糖尿病根治基金」を財源にした「第3回山田和彦賞」は、松本慎一国立国際医療研究センター膵島移植プロジェクト研究アドバイザーへの授与を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で贈呈式を次年度に延期しました。

このほか、6件の継続助成等を含め、本年度は15件7350万円の助成を行いました。

これにより累計では、助成件数98件、助成金額4億8200万円となりました。

1型糖尿病の根治、治療、予防に向けた研究がさらに進むことを期待しています。

『1型糖尿病 2025年「治らない」から「治る」へ』をテーマに据えた日本IDDMネットワークサイエンスフォーラムは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンライン（WEB形式）で2020年9月（前年度延期分）及び2021年6月に開催しました。

これまで研究助成を行った研究機関へ患者・家族が出向き研究の状況を発信する「研究室訪問」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施できませんでしたので、VR (Virtual Reality) 技術を活用した研究者からの成果発信といった手法転換に着手しました。

しかしながら、1型糖尿病を「治る」病気に変えようとしている医療者・研究者や患者・家族のみならず病気を知らない方々の“参加”も得て、「治る」病気になることへの期待感や研究者のモチベーションは高まっています。

1型糖尿病“根絶”のため、寄付に対し税制優遇措置が受けられる全国初の所轄庁（都道府県・政令市）認定特定非営利活動法人としての利点をいかすために様々なメニュー（基金の名前や金額、助成対象などを自由に決められる、寄付者の方の思いに合ったプログラム“冠基金”、販売額の一定割合を寄付する寄付つき商品、家庭や職場で不要になった本を提供していただく“ノーモア注射希望の本プロジェクト”、書き損じ・未使用のはがきを提供していただく“書き損じはがきプロジェクト”、家庭に眠っている貴金属、アクセサリ等を提供していただく“お宝エイド”、売上の一部が寄付になる“希望の自動販売機プロジェクト”等）を用意して寄付のお願いをしました。患者・家族による自発的なチャリティーも増えています。

多彩なメニューによる取り組みもあり、本年度の1型糖尿病研究基金には34,537,077円（佐賀県庁へのふるさと納税を除く）がよせられました（前年度比36%増）。

様々な寄付メニューの中でも、ノーモア注射マンスリーサポーター（1口1,000円を毎月口座から自動的に引き落とし）は、「マンスリーサポーター募集キャンペーン（2021年3月8日～5月17日）」にも取り組み、期間中104名もの方々に申込まいただき、501名（前年度比121名増）1121口となりました。

ソフトバンク株式会社様には「つながる募金」（スマートフォン等から簡単に寄付ができるサービス）並びに「チャリティモバイル」（専用WEBから対象機種を新規または機種変更で契約いただくと、ソフトバンク株式会社様が、6,000円＋毎月の利用料金の3%を当法人へ2年間に寄付）でご支援をいただいておりますが、期待に応えられる実績はあがっていません。

ヤフー株式会社様には、Yahoo!ネット募金でご協力をいただき、6月末の累計で約24000人の方々から約630万円の寄付を頂戴しています。

佐賀県とふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」（株式会社トラストバンク運営）のご協力で、本年度で7年目となる「日本IDDMネットワーク」を指定した佐賀県庁へのふるさと納税（寄付）は、令和2年度（佐賀県庁の会計年度：4月～3月）は2081件、83,203,773円と、前年度比22%減となりました。令和3年度（同4月～3月）は、6月末現在で610件、20,723,290円の指定寄付を頂戴しており、前年同期比54%増となっております。寄付額の90%が佐賀県庁から当法人へ寄付される予定です。主に研究費助成のために活用します。

特に「ふるさとチョイス」のガバメントクラウドファンディング（用途を明確にしたふるさと納税型クラウドファンディング）では、「発症早期1型糖尿病に対する免疫修飾療法の有効性と安全性に関する臨床試験」のために中條大輔富山大学附属病院臨床研究管理センター特命教授へ900万円、「ウイルス

糖尿病高感受性マウスの開発ー糖尿病誘発性ウイルスの同定によるワクチン開発を目指してー」のために永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授・九州大学名誉教授へ2000万円、「ヒト膵島を用いた膵β細胞量増大の実現に向けた研究」のために白川純群馬大学生体調節研究所代謝疾患医科学分野教授へ2000万円の研究費助成を実現することができました。

今後の研究進展に益々期待しています。

ふるさと納税にあたっては、たくさんの応援メッセージを頂戴しています。1型糖尿病のことをご存知無い方々からの寄付も多く、この研究支援寄付が、1型糖尿病の啓発にも大きく寄与しています。令和3年2月からは、iPS細胞による再生医療研究にさらに助成するために「ふるさとチョイス」のガバメントクラウドファンディングで取り組んでいます。

第10回大阪マラソンのチャリティー寄付先団体に選ばれましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で残念ながら令和2年は中止となりました。

女優の吉永小百合氏、作家の村上龍氏、J1 ヴィッセル神戸のセルジ サンペール氏等に出品いただき、「創立25周年記念チャリティーオークション」を開催し総額1,135,041円で落札いただき、1型糖尿病根絶に向けた研究支援に活用します。

平成23年1月に発足した『1型糖尿病「治らない」から「治る」ー“不可能を可能にする”ーを応援する100人委員会』の委員は141名となりました（本年度1名就任）。ノーベル医学・生理学賞を受賞された京都大学iPS細胞研究所長の山中伸弥氏をはじめ、作家・映画監督の村上龍氏、プロ野球阪神タイガースの岩田稔氏、京都大学名誉教授の西川伸一氏、国立国際医療研究センター研究アドバイザーの松本慎一氏ほか様々な分野の方々に“参加”いただいています。加えて『1型糖尿病「治らない」から「治る」ー“不可能を可能にする”ーを応援する希望の100社委員会』は22企業・団体（本年度就任なし）で、「治る」活動支援等の参加表明をいただいています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による対面イベントの中止・延期、企業寄付の減少等により、一時的に危機的な状況にありましたが、様々なご支援と職員の頑張りにより何とか乗り越えることができました。

対面型のイベント再開の目途はたっていませんが、次年度も、研究への投資、オンラインセミナーの強化等、常に改善を意識してチャレンジを続けます。

2025年には1型糖尿病が“治る”病気になるという期待感が高まっており、ふるさと納税を財源とした「バイオ人工膵島移植ジャパンプロトコール2025基金」（仮称）を創設することとしました。

内閣府が設置した「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に参加しました。日本IDDMネットワークは、1型糖尿病の根絶に向けた活動を通じSDGsの17のゴールのうち「3.すべての人に健康と福祉を」「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」「10.人や国の不平等をなくそう」の目標達成を目指す取り組みを進め、SDGsの推進や地方創生に寄与して参ります。

また、日本IDDMネットワークは平成12年に佐賀県に本部を移転した団体として、地元佐賀県へ貢献することを目指しています。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大により需要が減少した佐賀県産品（佐賀支え愛県産品）の消費拡大のために、佐賀県CSO支え愛キャンペーン事業に参加し、ふるさと納税の返礼品としてPRを強化しました。

このふるさと納税を財源として「コロナと戦う医療者への応援基金」を設立することとし、佐賀県内の新型コロナウイルス感染症治療の中心的医療機関である佐賀県医療センター好生館及び佐賀大学医学部附属病院の看護職の方々へ佐賀県産品を贈り、同時に患者・家族に対し感染予防の徹底を呼びかけることで医療継続及び佐賀県産品事業者支援にも寄与します。

次年度以降も、本部所在地である佐賀県への貢献を意識して取り組みます。

管理運営面では、年々業務が拡大しており、業務委託を進めながらも役職員が相当無理をしています。井上理事長は体調面から以前のような状態での業務は困難であり、大村副理事長は他業務との兼任で業務が遅れがちになっています。事務局は、有給職員10名（全員が短時間正職員とパートタイマー、7名は在宅勤務）及び外部委託（2社に委託）による体制としましたが、外部委託では限界があり、常勤、フルタイムの役職員体制強化が必須です。

徐々に充実した事務局体制になりつつありますが、役員は全員無給で職員の給与水準は低いままです。所要の改善が必要な状況にありますが新型コロナウイルス感染症拡大の影響もありその目途は立っていません。

このような状況下で、今年度も延72名のボランティアの方々に助けられました。

日本IDDネットワーク全体としては、事業規模は6年連続で1億円を超え、患者・家族のみならず一般社会を巻き込んだ共感の輪は広がり、評価も高まりつつあります。

サービス向上、研究支援の加速、財源確保のすべてを成り立たせるために来年度も尽力します。

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ネットワークの拡大・支援					患者及びその家族等	20
ネットワークの拡大・支援	○地域患者・家族会の活性化のために下記の団体に助成金を2万円交付した。 ・やまびこの会：サマーキャンプビデオメッセージ作成及び会のメーリングリスト創設	9月24日	佐賀市	2人	150人	
ネットワークの拡大・支援	○地域患者・家族会等の下記の事業に対し、後援を行った。 糖尿病治療研究会、糖尿病ネットワーク、糖尿病リソースガイド主催 「10月8日は、糖をはかる日」Web講演会	10月8日	佐賀市	2人	15000人	
情報収集提供・政策提言					患者及びその家族等	12845
情報収集提供・政策提言	○発症初期の1型糖尿病患者と家族にとって必要な情報を詰め込んだ「希望のバッグ」を周知、配布した。 ＜バッグに入っているもの＞ ・専門医による医療情報冊子「1型糖尿病とその治療について最初に知ってほしいこと」 ・療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧 ・祖父母向けパンフレット ・学校、幼稚園、保育園への説明用パンフレット ・注射器や血糖測定器を入れるポーチ ほか	通年	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	14人	1572人	
情報収集提供・政策提言	○インスリン補充を必要とする2型糖尿病患者向けの「希望のバッグ」を周知、配布した。 ＜バッグに入っているもの＞ ・専門医がわかりやすく解説したインスリン治療の冊子『「インスリン注射が必要」と言われている2型糖尿病患者さんへ」 ・専門医による医療情報冊子「1型糖尿病とその治療について最初に知ってほしいこと」 ・療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧 ・注射器や血糖測定器を入れるポーチ ・1型糖尿病の子どもたちからのメッセージDVD ほか	通年	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	13人	276人	
情報収集提供・政策提言	○以下の政策実現に向けて、所管大臣への要望や関係者との意見交換等を行った。 ・20歳以上の1型糖尿病患者への医療費助成についての要望 ・持続血糖測定器(CGM)に係る診療報酬についての要望 ・学校などの教職員等及び救急救命士の重症低血糖対応についての要望 ・特別児童扶養手当と小児慢性特定疾病の申請窓口の一元化についての要望 ・介護施設などでの介護職員によるインスリン療法実施に向けて関係者との意見交換及びアンケートの実施	通年	安城市 佐賀市 大津町 ほか	5人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○1型糖尿病患者の祖父母向けパンフレットを患者・家族等へ配布した。 6月には10,000部増刷した。	通年	佐賀市 ほか	3人	3万人	
情報収集提供・政策提言	○学校、幼稚園、保育園への説明用パンフレット「学校、幼稚園、保育園、認定こども園の先生のための1型糖尿病対応マニュアル」を10,000部作成し患者・家族等へ配布した。 6月には10,000部増刷した。	通年	船橋市 安城市 佐賀市 大津町	6人	3万人	
情報収集提供・政策提言	○2型糖尿病患者の祖父母向けパンフレットを患者・家族等へ配布した。 5月には10,000部増刷した。	通年	佐賀市 大津町	2人	3万人	
情報収集提供・政策提言	○教師のための2型糖尿病対応マニュアルを患者・家族等へ配布した。 5月には10,000部増刷した。	通年	佐賀市 大津町	2人	3万人	
情報収集提供・政策提言	○カバヤ食品(株)様から提供いただいたブドウ糖(グルコース)を主成分とした手軽な糖分補給が可能なタブレット「ジュウ-Cグルコース」を患者・家族等へ配布した。	通年	佐賀市 ほか	3人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○オウンドメディア『PRESS IDDM』で糖尿病に関する様々な情報発信を行った。	通年	船橋市 安城市 福岡市 佐賀市 熊本市 大津町	7人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○Twitterで1型糖尿病に関する情報発信を行い、1,835,240人(前年度比36%増)のリーチがあった。	通年	福岡市 熊本市 大津町	4人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○Facebookで1型糖尿病に関する情報発信を行い、359,890人(前年度比39%減)のリーチがあった。	通年	船橋市 福岡市 佐賀市 熊本市 大津町	10人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○糖尿病専門医6名の監修により、新型コロナウイルスに関する情報を発信した。	通年	東京都 大津町	2人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○日本糖尿病移植研究会、日本糖尿病学会年次学術集会、日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会等で情報収集や情報発信を行った。	通年	福岡市 ほか	2人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○インスリン補充療法をおこなう患者・家族のための社会福祉webセミナーをオンラインで4回(①医療費について②特別児童扶養手当・障害年金について③就労について④運転免許取得/更新時における留意点等)開催した。	8月30日 9月26日 10月10日 10月24日	那須烏山市 船橋市 東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	12人	100人 91人 71人 89人	
情報収集提供・政策提言	○「まもりんぐ料理教室～はじめてみよう！カーブカウン～」を日本メトロニック株式会社との共催によりオンラインで2回開催した。 この取り組みは毎日新聞に掲載された。	9月5日 2月27日	那須烏山市 船橋市 東京都 福岡市 大津町 ほか	12人	38人 62人	
情報収集提供・政策提言	○株式会社SHAREEAT様によるクラウドファンディング「#クリスマスにケーキを1型糖尿病の子どもたちへ年一回のプレゼント」に協力し、1型糖尿病患児50組に超低糖質クリスマスケーキを届けた。	10月～12月	那須烏山市 船橋市 福岡市 ほか	4人	150人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報収集提供・政策提言	○「1型糖尿病IDDMレポート2020」を11,000部作成し、ホームページでも公開した。	11月	安城市 福岡市 佐賀市 大津町 ほか	9人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○「#にちあいしゃべり場～患者・家族の”話せる”オンラインコミュニティ～」を患者、家族、年齢別等に23回開催した。 この取り組みは中日新聞に掲載された。	11月～	船橋市 大津町 ほか	4人	159人	
情報収集提供・政策提言	○「インスリン・ミーティング ー2型糖尿病の血糖コントロールー」をオンラインで開催した。 ①植木浩二郎国立国際医療研究センター研究所糖尿病研究センター長講演「もうすぐ100年、知って得するインスリン治療」 ②グレート義太夫氏講演「糖尿だよ、おっちゃん！」	11月21日	那須烏山市 船橋市 東京都 安城市 福岡市 大津町 ほか	12人	183人	
情報収集提供・政策提言	○カーボカウント講座の動画教材を3種類(①1型糖尿病 初級編②1型糖尿病 応用編③2型糖尿病編)作成、販売した。 講師：川村智行大阪市立大学医学部附属病院小児科新生児科講師	12月3日～	那須烏山市 東京都 安城市 ほか	9人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○「カーボカウント&先進デバイス活用セミナー」をオンラインで4回(①初心者向け②経験者向け③医療従事者向け④経験者向け)開催した。	1月30日 2月19日 3月27日 4月17日	那須烏山市 船橋市 東京都 安城市 熊本市 大津町 ほか	14人	94人 73人 136人 57人	
情報収集提供・政策提言	○社会保障制度講座の動画コンテンツ「運転免許取得と更新/就労編」「特別児童扶養手当・障害年金編」の作成、販売に向け準備を行った。	1月～	那須烏山市 東京都 安城市 福岡市 佐賀市 熊本市 ほか	7人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○リーフレット『「治らない」から「治る」へ』を改訂し、10,000部増刷した。	5月	佐賀市	2人	36万人	
調査研究					患者及びその家族等	2856
調査研究	○認定特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンと協働し低血糖アラート犬3頭の養成を行った。 その資金源確保及び啓発のために、低血糖アラート犬チャリティTシャツの販売を行った。 この取り組みはテレビ朝日「林修の今でしょ！講座 2時間スペシャル」、テレビ熊本「TKUライブニュース」で紹介された。	通年	岡山市 神石高原町 佐賀市 大津町 ほか	3人	36万人	
調査研究	○相談対応等について、AI(人工知能)を活用したシステム開発に取り組んだ。	通年	船橋市 大津町 ほか	4人	36万人	
調査研究	○1型糖尿病患者・家族等に必要な情報を網羅した「1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアル」Part1からPart5(別冊を含む6種類)を配布・販売した。Part4(先端医療編)は無償配布を行った。	通年	佐賀市 ほか	5人	36万人	
調査研究	○経済的事由で大学への進学が困難となっている1型糖尿病患者が、1型糖尿病根絶のために研究者、医療者を目指すことを応援するための「1型糖尿病根絶奨学金」による給付型奨学金(返還不要)の募集を行ったが、該当者は無かった。	通年	東京都 佐賀市 大津町	3人	36万人	
調査研究	○社会的課題の解決という夢の実現に向けて努力している1型糖尿病患者を応援するため「1型糖尿病患者起業支援基金」による起業支援募集を行ったが、該当者は無かった。	通年	東京都 佐賀市 大津町	3人	36万人	
調査研究	○以下の調査・研究等に協力を行った。 ・阪本雄一郎佐賀大学医学部附属病院高度救命救急センター長が中心になって取り組む災害時の糖尿病患者支援アプリ作成 ・非営利組織の事業承継に関する調査(NPOS研究会・関西大学商学部、金城学院大学国際情報学部、愛知学院大学経営学部、東海大学理学部、認定NPO法人きょうとグリーンファンド) ・日本のフンドレイジングの実態把握調査(東北学院大学経済学部、東北大学大学院情報科学研究科、神戸大学大学院人文学研究科、京都大学経営管理大学院) ・DIGI2022 ソーシャルセクター比較調査(認定NPO法人日本NPOセンター) ・シニア人材ニーズ調査(認定NPO法人日本NPOセンター) ・非営利団体のIT活用のための人材の実態とニーズ調査(ソーシャル・テクノロジー・オフィサー(STO)創出プロジェクトNPO調査委員会) ・特定非営利活動法人に関する実態調査(内閣府)	通年	佐賀市 ほか	4人	36万人	
関係団体との連携					患者及びその家族等	10
関係団体との連携	○NPO法人アジアパシフィックアライアンス・ジャパン様(本部:佐賀市)のご協力のもと、小松製作所様によるインレーションガウン約1600枚ほかサージカルマスク、ビニールガウン、森永製菓(株)様のinゼリー、ユニバーバ社様のヴァセリンクリーム等を国立病院機構大阪医療センターへ届けました。	7月14日	佐賀市	3人	36万人	
関係団体との連携	○JDRF(米国の1型糖尿病研究財団)とアメリカにおける1型糖尿病の研究や支援者の募り方についてオンラインミーティングを行った。	12月～4月	東京都 横浜市 安城市 大津町	4人	36万人	
普及啓発					患者及びその家族等	483
普及啓発	○「僕はまだがんばれるー“不治の病”1型糖尿病患者、大村詠一の挑戦ー」(じゃこめてい出版)を配布・販売した。	通年	佐賀市 ほか	4人	36万人	
普及啓発	○全国各地の小・中学校、企業、イベント等で、大村詠一 副理事長が1型糖尿病に関する講演を15回行った。	通年	全国各地	1人	36万人	
普及啓発	○テレビ熊本「TKUライブニュース」において、フジテレビ系ドラマ「アンサンブル・シンデレラ 病院薬剤師の処方箋」に関連した1型糖尿病の啓発として大村副理事長へのインタビューが放映された。	7月16日	大津町	1人	36万人	
普及啓発	○NHK Eテレ「ハートネットTV プレイクスルー 2020特別編▽コロナから学んだこと 第1夜」に大村副理事長が出演し、血糖測定やインスリン注射の様子、糖尿病患者向けのエクササイズ動画作成について紹介された。	7月20日	大津町	1人	36万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
普及啓発	○ORICON NEWSにおいて、当法人のWEBで紹介している山田圭子氏の漫画『げんきの森日記』が掲載された。	8月28日	那須烏山市 福岡市	2人	36万人	
普及啓発	○岐阜市の中間支援組織を対象にした「ふるさと納税オンライン研修」で、岩永幸三副理事長が1型糖尿病について講演を行った。	10月2日	佐賀市 ほか	2人	36万人	
普及啓発	○講談社「ミモレ」100年時代のキャリアデザインにおいて、日本IDDMネットワークのリモートワークの取り組みが掲載された。	10月29日	佐賀市	1人	36万人	
普及啓発	○文化放送(ラジオ)「斉藤一美ニュースワイドSAKIDORI!」に大村副理事長が出演し、新型コロナウイルス感染症への重症化リスクに対する1型糖尿病患者・家族の不安や早期治療の重要性、主治医とのコミュニケーションの大切さについて話した。	2月5日	大津町	1人	36万人	
普及啓発	○「岩田投手×サンペール選手 1型糖尿病アスリートWeb交流会」をオンラインで開催した。 この取り組みは、デイリースポーツ、NHK NEWS WEB、神戸新聞等40以上のメディアで紹介された。	3月8日	那須烏山市 船橋市 東京都 安城市 福岡市 福岡市 佐賀市 大津町 ほか	12人	3000人	
普及啓発	○「信頼あるNPO」30団体を紹介 応援したい団体が必ず見つかるガイドブック『Good Governance Voice 2021』(一般財団法人非営利組織評価センター発行)に日本IDDMネットワークの活動が紹介された。	3月17日	那須烏山市 佐賀市	2人	36万人	
普及啓発	○佐賀県内のNPO等によるふるさと納税勉強会で、岩永幸三副理事長が1型糖尿病について講演を行った。	3月20日	佐賀市	1人	36万人	
普及啓発	○株式会社宮田運輸様による「こどもミュージアムプロジェクト」に協力し、1型糖尿病の子どもの夢を描いたミュージアムトラックが大阪・関東間を走るようになった。 この取り組みは、Lnews、時事ドットコム、佐賀経済新聞で紹介された。	4月～	横浜市 安城市 福岡市 福岡市 大津町	4人	36万人	
普及啓発	○WEBサイト「看護のお仕事」において、当法人の活動や1型糖尿病について紹介された。	5月26日	大津町	1人	36万人	
普及啓発	○NHK総合「ニュースきん5時」に大村副理事長が出演し、コロナ禍における糖尿病患者の治療について体験談を語った。	6月4日	大津町	1人	36万人	
療育相談					患者及び その家族等	946
療育相談	○電子メール(334件)、SNS(90件)、面談(5件)、相談電話(241件)、ホームページ(823,746件)等を通して、様々な相談等に対応した。	通年	船橋市 東京都 安城市 木津川市 佐賀市 大津町 和水町 ほか	8人	36万人	
会報発行					患者及び その家族等	1262
会報発行	○会員等への情報提供として活動報告レポートを9,500部発行、送付した。	6月	福岡市 佐賀市 ほか	5人	36万人	
会報発行	○会員等への情報提供として、メールマガジンを配信した。	7月2日 7月6日 7月21日 7月29日 9月1日 11月5日 12月2日 1月4日 2月11日 3月25日 4月30日 5月29日 6月26日	那須烏山市 船橋市 東京都 横浜市 安城市 福岡市 福岡市 佐賀市 熊本市 大津町	11人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成					患者及び その家族等	73500
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○第3回山田和彦賞を松本慎一国立国際医療研究センター膝島移植プロジェクト研究アドバイザーに授与することを決定した。贈呈式は2021年5月15日を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大により開催を延期した。	通年	安城市 佐賀市 大津町 ほか	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源とし、下記研究に助成を行った。 ・発症早期1型糖尿病に対する免疫調節療法の有効性と安全性に関する臨床試験 研究代表者: 中條大輔富山大学附属病院臨床研究管理センター特命教授 助成額: 900万円	9月14日	安城市 佐賀市 熊本市 大津町	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○A-Portクラウドファンディングによる寄付金を財源として、下記研究に助成を行った。 ・マウス発生環境を利用したヒト膵臓作製 研究代表者: 山口智之東京大学医学部研究所幹細胞治療部門特任准教授 助成額: 1,000万円	10月28日	安城市 佐賀市 大津町	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源とし、下記研究に助成を行った。 ・ウイルス糖尿病高感受性マウスの開発ー糖尿病誘発性ウイルスの同定によるワクチン開発を目指してー 研究代表者: 永瀬正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科 特任教授、九州大学名誉教授 助成額: 2,000万円	1月22日	安城市 佐賀市 熊本市 大津町	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源とし、下記研究に助成を行った。 ・ヒト膵島を用いた膵β細胞量増大の実現に向けた研究 研究代表者: 白川純群馬大学生体調節研究所代謝疾患医学分野教授 助成額: 2,000万円	3月25日	安城市 佐賀市 熊本市 大津町	5人	36万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」助成対象課題の中で継続助成を希望された研究課題の中から下記の4件へ助成を行った。 ・1型糖尿病に対するIL-7R標的Antibody-drug conjugate(ADC)の開発(継続3年目) 研究代表者:安永正浩国立がん研究センター・先端医療開発センター・新薬開発分野 ユニツト長 助成額:100万円 ・1型糖尿病に対する根治治療としての自己由来脂肪幹細胞から作成したinsulin producing cell自家移植法臨床応用に関する研究開発(継続3年目) 研究代表者:池本哲也徳島大学病院消化器・移植外科特任教授 助成額:100万円 ・細胞内代謝異常への介入に着目した1型糖尿病治療の探究(継続2年目) 研究代表者:野本博司北海道大学病院内科II 助教 助成額:100万円 ・自然免疫系を標的とした1型糖尿病の治療法開発(継続4年目) 研究代表者:福井竜太郎東京大学医学部研究所感染遺伝学分野特任准教授 助成額:100万円	4月7日 6月8日 6月30日	安城市 佐賀市 ほか	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」の第15回研究助成課題の公募を行い、6件の応募の中から下記の3件へ助成を行った。 ・自己反応性T細胞を標的とした1型糖尿病発症予防法の開発 研究代表者:岡村拓郎京都府立医科大学病院助教 助成額:100万円(松崎ちづる基金による助成) ・GLP-1シグナリングによるT細胞アレルギー誘導効果を介した1型糖尿病の根治治療法の開発 研究代表者:伊藤新慶慶義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科助教 助成額:100万円(竹原ファミリー基金による助成) ・血糖値の変動に応じた機能的インスリン分泌を可能とするAAVベクターの構築と1型糖尿病モデルに対する治療効果の検討-1型糖尿病の根治を目指して- 研究代表者:菅澤威仁筑波大学医学医療系スポーツ医学研究室助教 助成額:100万円(Sky基金による助成)	5月19日 5月26日	安城市 佐賀市 大津町 ほか	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○研究成果により当該研究機関が対価を得た場合、提供した金額を上限にその研究資金が当法人に還元され、その還元された資金で別の研究機関を支援する「循環型研究資金」として以下の研究に資金提供を行った。 ・ゲノム編集技術を用いた自己免疫機能の改変による自然発症1型糖尿病モデルマウスの開発 研究代表者:谷原史倫自治医科大学医学部先端医療技術開発センター動物資源ラボラトリー准教授 研究資金:200万円(契約に基づく循環型研究資金)	6月10日	安城市 佐賀市	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○研究成果により当該研究機関が対価を得た場合、提供した金額を上限にその研究資金が当法人に還元され、その還元された資金で別の研究機関を支援する「循環型研究資金」として以下の研究に資金提供を行った。 ・レプチン受容体シグナルを介した1型糖尿病の新規治療開発 研究代表者:坂野僚一名古屋大学総合保健体育科学センター准教授 伊藤慎浩名古屋大学医学部附属病院糖尿病・内分泌内科 客員研究者 研究資金:200万円(契約に基づく循環型研究資金)	6月24日	安城市 佐賀市	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○研究成果により当該研究機関が対価を得た場合、提供した金額を上限にその研究資金が当法人に還元され、その還元された資金で別の研究機関を支援する「循環型研究資金」として以下の研究に資金提供を行った。 ・ダニ虫体抗原による1型糖尿病の根治治療 研究代表者:中村和北里大学獣医学部特任教授 研究資金:100万円(契約に基づく循環型研究資金)	6月30日	安城市 佐賀市	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○Yahoo! ネット募金による寄付金を財源として、下記研究に助成を行った。 ・マクロファグ活性化誘導による1型糖尿病治療の研究 研究代表者:祝迫恵子同志社大学生命医科学部医学生命システム学科教授 角昭一郎同志社大学生命医科学部医学生命システム学科嘱託講師 助成額:250万円	6月24日	安城市 佐賀市 大津町	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) シンポジウム					患者及びその家族等	212
1型糖尿病研究基金 (特別会計) シンポジウム	○サイエンスフォーラム2020ー根治に向けてのカウントダウン6ーをオンラインで2日間に渡って開催した。 テーマ①大規模災害時の支援システム確立 阪本雄一郎 佐賀大学医学部附属病院 高度救命救急センター長 テーマ②バイオ人工臓器移植の実現 雷田雅之 国立国際医療研究センター研究所 臓器移植プロジェクト長 テーマ③ヒト膵島を用いた膵β細胞量増大の実現に向けた研究 白川純群馬大学生体調節研究所 代謝疾患医学分野教授 テーマ④1型糖尿病モデルマウスを用いたターゲツトの前臨床試験 佐伯久美子 国立国際医療研究センター細胞組織再生医学研究部・客員研究員 テーマ⑤自らの脂肪から再生医療技術で作成したインスリン産生細胞の自家移植による1型糖尿病根治に向けた研究 池本哲也 徳島大学病院消化器・移植外科特任准教授 テーマ⑥低血糖激減プロジェクト 村田敬国 立病院機構京都医療センター糖尿病センター 医長 テーマ⑦インスリンを使用することなく血糖値を正常化する治療法 坂野僚一名古屋大学総合保健体育科学センター 准教授 テーマ⑧次世代抗体医薬 Antibody-drug conjugate (ADC)により免疫細胞を制御する方法の開発 安永正浩 国立がん研究センター 先端医療開発センター 新薬開発分野 分野長 テーマ⑨動物の体内でヒトの臓器を作る 山口智之 東京大学医学部研究所 幹細胞治療部門特任准教授	9月6日 9月12日	那須烏山市 船橋市 東京都 安城市 福岡市 佐賀市 熊本市 大津町	12人	225人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計) シンポジウム	○サイエンスフォーラム2021ー根治に向けてのカウンタダウン5ーをオンラインで開催した。 ・特別講演「動物の体内での膵臓作成、1型糖尿病根治に向けて」 中内啓光 スタンフォード大学 幹細胞生物学・再生医療研究所 教授/東京大学医学研究所 特任教授 ・分科会 ①膵島移植&バイオ人工膵島移植プロジェクトの現状と今後 小玉正太 福岡大学医学部再生・移植医学講座 主任教授 霧田雅之 国立国際医療研究センター研究所膵島移植プロジェクト長 井上亮 南大学農学部応用生物科学科教授 ②細胞内代謝異常への介入に着目した1型糖尿病治療の探究 野本博司 北海道大学病院内科 II 助教 ③One to one 移植を目指したMuse細胞と膵島の共移植 伊藤泰平 藤田医科大学医学部移植・再生医学 准教授 ④エクソソームによる膵β細胞保護・増殖効果の研究 浅原俊一郎 神戸大学医学部付属病院糖尿病・内分泌内科 助教 ⑤ニューレグリン1による膵β細胞への分化転換を介した1型糖尿病に対する新規治療法の開発 合田亘人 早稲田大学理工学術院 教授 ⑥マクロカプセル化膵島皮下移植システムの研究 角昭一郎 美杉会佐藤病院医師 ⑦ダニ虫体抗原による1型糖尿病の根治治療 中村和北里大学獣医学部特任教授 ⑧発症早期1型糖尿病に対する免疫修飾療法の有効性と安全性に関する臨床試験 中條大輔 富山大学附属病院 臨床研究管理センター 特命教授 ⑨ウイルス糖尿病高感受性マウスの開発ー糖尿病誘発性ウイルスの同定によるワクチン開発を目指してー 永瀧正法 佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科 特任教授 ・特別セッション ①日本で使用できる先進デバイス 川村智行 大阪市立大学医学部附属病院小児科新生児科講師 ②コロナ禍で患者が気をつけること 村田敬京 都医療センター糖尿病センター医長	6月12日	那須烏山市 船橋市 東京都 横浜市 安城市 福岡市 佐賀市 熊本市 大津町	15人	74人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) シンポジウム	○創立25周年記念イベントー2025年1型糖尿病根治に向けてー&第3回山田和彦賞贈呈式を5月15日に予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大により延期した。	通年	那須烏山市 船橋市 東京都 安城市 佐賀市 熊本市 大津町 ほか	15人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報					患者及びその家族等	19664
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○1型糖尿病「治らない」から「治る」ー“不可能を可能にする”ーを応援する100人委員会の委員が141名となった。 <100人委員会の役割> ・不可能を可能にするこの取り組みを“社会に発信”する。 ・不可能を可能にするこの取り組みの“戦略に助言”する。 ・不可能を可能にするこの取り組みに“参加”し患者と家族に勇気を与える。	通年	東京都 安城市 佐賀市	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○1型糖尿病「治らない」から「治る」ー“不可能を可能にする”ーを応援する希望の100社委員会の委員は前年度に引き続き22社・団体であった。各社・団体からは、様々な「治る」活動支援等の参加表明が寄せられている。	通年	福岡市 佐賀市	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○公益財団法人パブリックリソース財団様のご協力により、オンライン寄付サイト「Give One(ギブワン)」で「不治の病」1型糖尿病の子どもたちを助けたい！根絶のための研究にご支援をお願いします」と題して、1型糖尿病研究基金への寄付をお願いした。	通年	熊本市 大津町	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○ヤフー株式会社様のご協力により「Yahoo!ネット募金」で、膵島移植やバイオ人工膵島移植をより安全で効果を持続させる「マクロカプセル化膵島」の開発を支援するため「年間1,600回の注射を打ち続けなくてはならない「不治の病」の子どもたちに「治る」希望を」と題して、1型糖尿病研究基金への寄付をお願いした。	通年	福岡市 佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○日本IDDMネットワークを指定して佐賀県庁へふるさと納税をしていただいた方々へ、佐賀県の患者家族によるこだわりの品(有田焼、有明海産海苔)、1型糖尿病根絶の取り組みに共感頂いた佐賀の生産・加工業者の方々によるこだわりの品(農産物、伝統工芸品等)、をお礼として送付した。	通年	佐賀市 唐津市 伊万里市 武雄市 鹿島市 小城市 嬉野市 神埼市 みやき町 玄海町 有田町 白石町 太良町	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○新型コロナウイルス感染拡大により需要が減少した佐賀県産品(佐賀支え愛県産品)の消費拡大のために、佐賀県CSO支え愛キャンペーン事業に参加し、ふるさと納税の返礼品としてPRを強化した。	7月1日 ~ 12月31日	佐賀市 唐津市 伊万里市 鹿島市 小城市 嬉野市 神埼市 みやき町 玄海町 有田町 太良町	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、永瀧正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授が中心となって進めている1型糖尿病予防ワクチンに関する研究への支援を呼びかけた。 目標:20,000,000円 実績:20,710,000円 558人からの支援申込あり	4月24日 ~ 10月31日	佐賀市 大津町 ほか	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、白川純群馬大学生体調節研究所代謝疾患医学分野教授が中心となって進めている1型糖尿病患者の体内に残った膵β細胞増加により1型糖尿病根治を目指す研究への支援を呼びかけた。 目標:20,000,000円 実績:25,055,523円 720人からの支援申込あり	11月2日 ~ 1月30日	佐賀市 大津町 ほか	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、iPS細胞による1型糖尿病根治を目指す研究への支援を呼びかけた。 目標:20,000,000円 実績:24,564,310円 741人からの支援申込あり	2月12日 ~ 7月31日	佐賀市 大津町 ほか	6人	36万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「バイオ人工膵島移植実現に向けた感染症の検査体制の構築」のために、日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税による摂南大学への研究助成金600万円の贈呈式を開催し、日刊工業新聞、大阪日日新聞、毎日新聞で紹介された。	7月29日	枚方市	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「発症早期1型糖尿病に対する免疫修飾療法の有効性と安全性に関する臨床試験」のために、日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税による富山大学への研究助成金900万円の贈呈式を開催し、富山新聞、北日本新聞で紹介された。	10月30日	富山市 安城市	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「マウス発生環境を利用したヒト膵臓作製」のために、朝日新聞社のクラウドファンディングサイト「A-port」による寄付を財源として、東京大学医科学研究所への研究助成金1000万円の贈呈式を開催した。	12月3日	東京都 安城市 アメリカ	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「糖尿病誘発性ウイルスの同定によるワクチン開発」のために、日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税による佐賀大学への研究助成金2000万円の贈呈式を開催し、朝日新聞、佐賀新聞で紹介された。	12月21日	佐賀市	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ヒト膵島を用いた膵β細胞量増大の実現」のために、日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税による群馬大学への研究助成金2000万円の贈呈式を開催し、上毛新聞で紹介された。	4月26日	前橋市 安城市	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○遺贈寄付ウィーク2020に参加し、大村詠一副理事長がFacebookライブによるモーニングセッションで1型糖尿病根絶に向けた研究支援を呼びかけた。	9月5日 ～ 9月14日	東京都 大津町	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○読売新聞において、「日本IDDMネットワーク創立25周年記念 チャリティーオークション」について紹介された。	10月28日	那須烏山市 福岡市	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○第10回大阪マラソン(11月29日)にチャリティ寄付先団体(チャレンジパートナー)としての参加を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大会が延期となった。	11月	福岡市 佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○6年目となる全国的な寄付啓発キャンペーン「寄付月間～Giving December～」の賛同パートナーとして、1型糖尿病の“根絶”を目指し歳末寄付を会員ほか関係者へお願いした。	12月	那須烏山市 東京都 佐賀市 ほか	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○阪神タイガース公式サイト、スポーツニッポン、東京中日スポーツ、スポーティングニュース・ジャパンにおいて、阪神タイガースの岩田投手から1型糖尿病研究基金への10万円の寄付について紹介された。	12月9日	福岡市 ほか	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○週刊文春WOMANの遺贈・寄付特集で「1型糖尿病を”治る”病気へ 子どもに注射器ではなく希望を」と題して支援を呼びかけた。	12月21日	東京都 佐賀市 ほか	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパン、認定NPO法人シェア＝国際保健協力市民の会、公益財団法人日本対がん協会と共催で、「おひとりさまのための終活」をオンラインで開催し、1型糖尿病根絶に向けた研究支援を呼びかけた。	1月22日	那須烏山市 東京都 佐賀市 ほか	12人	76人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○マンスリーサポーター100名募集キャンペーンを行った。4月15日にはSNS上でシェアまつりを開催し、動画でのライブ配信も行った。その結果104名の申し込みにつながった。	3月8日 ～ 5月17日	那須烏山市 船橋市 東京都 安城市 佐賀市 熊本市 大津町 ほか	11人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○朝日新聞(九州版)において「1型糖尿病を”治る”病気へ～進化する膵島移植～」と題し、小玉正太福岡大学医学部長のインタビューが掲載され、当法人の1型糖尿病研究基金による研究助成の取り組みについても紹介された。	3月13日	安城市 福岡市 佐賀市 大津町	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○1型糖尿病根絶に関する研究について学ぶ「一緒に学ぼう！1型糖尿病研究の最前線」をオンラインで開催した。 vol.1 テーマ「免疫」、vol.2 テーマ「根治」	4月8日 4月22日	安城市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○READYFOR株式会社の「レディーフォー遺贈寄付サポート窓口」において支援先団体として掲載された。	4月12日～	佐賀市 大津町	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○週刊文春の遺贈・寄付特集で「1型糖尿病を”治る”病気へ 子どもに注射器ではなく希望を」と題して支援を呼びかけた。	4月28日	東京都 福岡市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○公益財団法人日本対がん協会、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会と共催で連続・遺言セミナー「女性のための終活」をオンラインで開催し、1型糖尿病根絶に向けた研究支援を呼びかけた。	6月28日	東京都 横浜市 佐賀市 ほか	14人	77人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	<主な寄付金収入実績>					
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○毎月定額(1口1,000円)で当研究基金のサポートをいただく「ノーマ注射マンスリーサポーター」から寄付を頂戴した。 サポーター数:501名で1121口 寄付金額:10,635,000円	通年	全国各地	11人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○ココ・コーラグループ各社様、(株)伊藤園様、サントリービバレッジサービス(株)様、サントリービバレッジソリューション(株)様、(株)ジャパンビバレッジホールディングス様、(株)ベネフレックス様、FVジャパン(株)様、(株)TGサポート様、(特非)ジャパン・カインドネス協会様、大塚ウエルネスベンディング(株)様及び難病・慢性疾患患者支援自動販売機を設置いただいた皆様のご協力により、その飲料売上額の一部が当研究基金へ寄付された。 設置台数:64台 寄付金額:1,461,810円	通年	仙台市 つくば市 下野市 上里町 千葉市 市原市 東京都 新潟市 三条市 柏崎市 燕市 富山市 白山市 福井市 小浜市 鯖江市 越前市 南越前町 おおい町 名古屋 一宮市 京都市 綾部市 枚方市 門真市 東大阪市 姫路市 岡山市 福山市 今治市 佐賀市 大分市 肝付町	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○(株)バリュブックス様の協力で家庭や職場に眠っている古本を提供いただく「ノーマ注射～希望の本プロジェクト」により寄付を頂戴した。 冊数:3,666冊 寄付金額:112,337円	通年	全国各地	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○株式会社バリュブックス様及びTMコミュニケーションサービス株式会社様の協力で家庭や職場にある書き損じ・未使用のハガキを提供いただく「書き損じハガキプロジェクト」により寄付を頂戴した。 枚数:11,368枚 寄付金額:360,021円	通年	全国各地	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○ソフトバンク株式会社様のご協力で、スマートフォン等から寄付できる「つながる募金」により寄付を頂戴した。 寄付金額:768,876円	通年	全国各地	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○TMコミュニケーションサービス株式会社様のご協力で、不用品の買取価格に10%が加えられた金額をいただく「お宝エイド」により寄付を頂戴した。 寄付金額:853,376円(書き損じハガキプロジェクト分を含む)	通年	全国各地	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○「妹が残した遺産の一部です。妹は2型糖尿病を患っていました。1型糖尿病の人を一人でも減らしたいと思います。」として、いただいたご寄付で「松崎ちづる基金」(金額等非公表)を設立した。	8月30日	佐賀市 ほか	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○「日本IDDMネットワーク創立25周年記念 チャリティーオークション～世界糖尿病デーに寄せて、1型糖尿病根絶を願う～」をオンラインで開催した。 【出品者】吉永小百合さん(女優)／村上龍さん(作家)／岩田稔さん(プロ野球 阪神タイガース)／セルジ サンペールさん(プロサッカー 楽天ヴィッセル神戸)／山川浩正さん(ミュージシャン(元THE BOOM))／グレート義太夫さん(芸人・タレント)／羊洗坂係長さん(俳優・芸人・ダンサー)／星南さん(モデル・タレント) 寄付金額:1,072,618円(落札金額:1,135,041円)	11日9日 ～ 11月15日	全国各地	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○カバヤ食品株式会社様から例年「カバヤ・オハヨーグループ さくらまつり」収益金の一部が寄付されているが、新型コロナウイルス感染症の影響で今年も中止になったにもかかわらず「シュー-Cグルコース」を応援する社員の方々のおかげで今年も寄付を頂戴した。 寄付金額:200,000円	4月15日	岡山市	2人	36万人	

(2) その他の事業 該当なし